

令和5年度 中国・四国地区 図書館地区別研修 開催要項



島根県立図書館イメージキャラクター
ぶつくまくん と しおりちゃん

主催：文部科学省、島根県教育委員会 主管：島根県立図書館
協力：公益財団法人日本図書館協会、全国公共図書館協議会、島根県図書館協会

1 趣旨

情報化の進展など図書館に関する最新のテーマや地域における課題等について研修を行い、図書館における中堅の司書としての力量を高めることを目的とします。

2 期間

令和5年12月5日（火）～12月8日（金）

3 会場

島根県民会館 大会議室（〒690-0887 島根県松江市殿町158）

4 対象

- (1) 図書館法第2条に規定する図書館に勤務する司書で、勤務年数が概ね3年以上の方若しくは研修テーマに関連する業務に従事している方
- (2) 上記(1)と同等の職務を行う島根県教育委員会が認めた方

5 定員

160名（会場での受講：80名、オンラインによる受講：80名）

オンラインによる受講は、「Zoom」を使用します。

受講者の決定については、修了証書の取得を目的とする方を優先させていただきます。

（「7 修了証書」の項参照）

6 参加費 無料

7 修了証書

研修の概ね4/5以上を受講し、業務の改善提案・活用方法（研修内容・研修成果を踏まえた提案等）について、研修終了後2週間以内にレポート（1,200字程度）を提出した方に修了証書を授与します。

なお、オンライン受講についても同様の取り扱いとしますが、受講者の視聴環境により受講できなかった場合は、修了証書を授与できない場合があります。

8 日程等

(1) 研修日程

	12月5日(火)	12月6日(水)	12月7日(木)	12月8日(金)
9:30	/	受付	受付	受付
10:00		【講義①】 「これからの児童サービスに求められる役割」 岩崎 れい 氏	【講義③】 「読書相談サービスとレファレンスサービス」 福永 智子 氏	【講義⑥】 「著作権法と図書館サービス 図書館等公衆送信サービスの開始に向けて」 小池 信彦 氏
12:00		休憩	休憩	閉講式 12:00-12:15
13:00	受付	【講義②】 「超高齢社会における図書館サービス」 呑海 沙織 氏	【講義④・演習】 「公共図書館の選書」 安形 輝 氏	/
13:30	開講式 13:30-13:40			
13:40	【文部科学省説明】 文部科学省担当官	休憩	休憩	
14:45	【基調講演】 「公共図書館の展開」 嶋田 学 氏	【事例発表①・②】 ①「海士町島まるごと図書館の取組」 磯谷 奈緒子 氏 ②「益田市立図書館の取組～市民協働で新たな拠点化を目指して～」 大畑 伸幸 氏	【講義⑤】 「地域資料の活用」 板垣 貴志 氏	
15:00				
15:15	事務連絡	事務連絡	事務連絡	
16:45	事務連絡	事務連絡	事務連絡	
17:00	事務連絡	事務連絡	事務連絡	

※基調講演、講義②、講義⑥はリモート講義です。

(2) 研修内容

基調講演	「公共図書館の展開」 嶋田 学 氏 (京都橘大学 文学部 教授)
	<p>住民や社会の課題が多様化、複雑化する中、公共図書館の役割はますます重要となってきた。一方で、長引く地方財政の逼迫や電子書籍、生成AIに代表されるデジタル化社会への対応など、図書館の経営環境はめまぐるしい変化の只中に置かれている。</p> <p>このような状況において、公共図書館は、社会における住民一人ひとりの知的関心に応え、それぞれの学びを支えつつ、生活環境としての社会の課題を解決するための「学びのコミュニティ」づくりが期待されている。こうした観点から、これからの公共図書館の展開を展望する。</p>
講義①	「これからの児童サービスに求められる役割」 岩崎 れい 氏 (京都ノートルダム女子大学 国際言語文化学部 教授)
	<p>日本の公共図書館の児童サービスは、丁寧な検討を重ねながら発展してきた。同時に、近年では社会の変化や情報技術の発達などに伴い、公共図書館に求められる役割も多様化してきている。また、ブックスタートに見られるように、他の行政機関や民間団体と連携</p>

	<p>することによって新たなサービスの模索も続いている。</p> <p>その中で、今後の児童サービスにおいては、専門職である司書にはどのような専門性が求められ、そして、どのようなサービスを展開していくことを求められているのか、国際的な動向も見据えながら、模索する。</p>
講義②	<p>「超高齢社会における図書館サービス」 呑海 沙織 氏 (筑波大学 副学長)</p> <p>現在、日本の高齢化率は29% (令和5年度版 高齢社会白書) であり、世界第一位である。今後も高齢化率は増加することが推計されており、高齢者の高齢化、平均寿命と健康寿命の差、認知症者の増加などが課題となっている。本講義では、超高齢社会における図書館サービスについて、高齢者サービスの実態と課題、高齢者との協働について、また、認知症支援サービスという観点から、認知症施策における図書館の役割、認知症にやさしい (Dementia friendly) という概念から考える。</p>
事例発表 ①	<p>「海士町島まるごと図書館の取組」 磯谷 奈緒子 氏 (海士町中央図書館 館長)</p> <p>2007年に町が進める人づくりの重点施策として島まるごと図書館構想が立ち上がった。これは「図書館がない島」というハンディキャップを逆に活かし、島の学校、地区公民館、港など人が集まる施設に分館を設置して島全体を一つの図書館とする構想である。</p> <p>2010年に拠点となる中央図書館が開館し、図書館活動もさらに活発化した。分館は地域や学校との連携により28カ所まで増え、本が手に取りやすい環境が整った。構想から16年を経て得られた成果、島民のニーズに寄り添った多面的サービスのようす、住民との協働型によるイベント・図書館運営等について報告する。</p>
事例発表 ②	<p>「益田市立図書館の取組～市民協働で新たな拠点化を目指して～」 大畑 伸幸 氏 (元 益田市立図書館 館長)</p> <p>「協働」をキーワードに、市立図書館を社会教育施設として、多くの市民に活用してもらうことを目指し、様々な取り組みを進めてきた。月一回の市民の実行委員会が運営する「来ぶらりマルシェ」や各種ワークショップ、ものづくり、そして、市民団体との協働で図書館前広場を市民の手で花いっぱいにするイベントなどの取り組みを進めた。その結果、図書館にこれまで足を運ばなかった市民の新たな活動拠点、居場所としての活用が増えてきた。これこそ、社会教育施設でもある図書館の可能性を広げていく取り組みであると考えた。</p>
講義③	<p>「読書相談サービスとレファレンスサービス」 福永 智子 氏 (椋山女学園大学 文化情報学部 教授)</p> <p>読書相談サービスとはどのようなものか。法的根拠があり、実施率も高いと言われているが、日本の図書館界では、その位置付けが不明確で、共通理解に至っていない。人的援助であることから、レファレンスサービスとよく似ているが、両者はどう違うのか。図書館では、情報利用や入手に限らず、読書材選択の支援も必要ではないだろうか。そこで本講義では、(1) 読書相談サービスの制度についてこれまでの議論を確認し、(2) 読書相談サービスとレファレンスサービスとの関係と違いについて説明し、(3) 読書材の例として小説などの文学作品を手がかりに、図書館における支援の方向性について取り上げる。</p>
講義④・ 演習	<p>「公共図書館の選書」 安形 輝 氏 (亜細亜大学 経営学部 教授)</p> <p>公共図書館において日常的に行われている資料選択が本質的にはセンシティブな行為であることを再認識してもらうために、グループワーク等の演習を含めた講義を行う。さらに、資料選択だけでなくコレクションとしての魅力を保つために除籍を行うさいの留意点を図書館ネットワークという広い視点から解説する。また、資料選択に関わる現代的な課題、例えば、電子書籍の取り扱い、ChatGPTに代表される生成AIと図書館の資料提供サービスとの関わりについても取り上げる。</p>

講義⑤	<p>「地域資料の活用」 板垣 貴志 氏（島根大学 法文学部 准教授）</p> <p>膨大な歴史資料が残る日本は、世界的にも稀な地域である。地域に埋もれた歴史資料を住民主体で掘り起こし、まちづくりに活かす取り組みが全国で始まっている。</p> <p>島根県立図書館での市民参加による県内戦争体験データベース構築講座や、鳥取県伯耆町矢田貝家住宅での住民参加調査などを紹介しつつ具体的に地域資料の活用実践を講義する。</p> <p>受講生の皆さまとは、過疎・高齢化など人口減少社会における未来を見据えた図書館等での文化活動のあり方を考えてみたいと思う。</p>
講義⑥	<p>「著作権法と図書館サービス 図書館等公衆送信サービスの開始に向けて」 小池 信彦 氏（日本図書館協会著作権委員会）</p> <p>令和3年改正著作権法が施行され、図書館等での複写サービスにメール送信が可能となった。サービスを実施するために必要なルールなどを説明する。</p>

9 参加申込

(1) 申込方法

参加申込書に必要事項を記入のうえ、メールをお送りください。

参加申込書は下記ページからダウンロードできます。

<https://www.library.pref.shimane.lg.jp/chikubetsukensyu.html> 地区別研修

(2) 申込期限 令和5年10月31日(火)

(3) 申込み・問合せ先

島根県立図書館（担当：坪内、藤田）

〒690-0873 島根県松江市内中原町52 電話：0852-22-5730 FAX：0852-22-5728

E-Mail：shien@pref.shimane.lg.jp

10 宿泊

宿泊は、各自で手配をお願いします。

11 会場へのアクセス

JR 松江駅より

- ・松江市営バス／「大学・川津行」（2番のりば）、「松江しんじ湖温泉行」（3番のりば）、「北循環線（外回り）」（1番のりば）で10分「県民会館前」下車
- ・一畑バス／「美保関ターミナル行」（2番のりば）、「松江しんじ湖温泉行」（3番のりば）、「恵曇・片匂・古浦・高専行」（6番のりば）で10分「県民会館前」下車
- ・運賃：170円（北循環線は210円）※2023年5月1日現在
- ・参考URL <https://www.cul-shimane.jp/hall/access/> 島根県民会館へのアクセス

12 備考

自然災害等の諸事情により、開催が困難と認められる場合は、研修を中止します。その際はメールによりご連絡します。

オンライン受講の方へ。電波やネットワークの不具合等によって発生した研修機会の逸失に対する補償はいたしかねます。あらかじめご了承ください。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。